

医師としてできること 知ることから

振津かつみ医師 講演会



兵庫医科大学遺伝学 助教／チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西 事務局
内科医。広島・長崎の被爆者健康調査に携わり、ベラルーシで20年以上
被曝者支援を続け、福島でも被災者の医療相談を受けておられます。

日時：2013年6月21日（金）午後7時～9時

場所：ユニゾンプラザ 5階 特別会議室

対象：医師・歯科医師 参加費：500円 申し込み：不要

内容：講演と質疑応答形式で、以下の内容をお話頂きたいと思っております

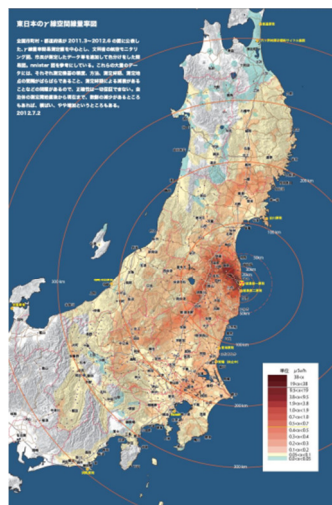
- ①放射線障害のメカニズム
- ②チェルノブイリの健康障害の現況
- ③福島の健康障害の現況、将来の予測、医師の役割
- ④WHOの見解（チェルノブイリと福島に関して）
- ⑤原子力発電所で事故が生じた時の医師の役割



ヨウ素剤



原発の所在地と半径100kmの円



東日本のγ線空間線量率図



福島第一原子力発電所 2011.3

新潟市は 世界最大の
柏崎刈羽原発から100km。
風速10mの西風は3時間で到達。

主催：内部被曝・低線量被曝を勉強する医師の会 永井博子(代表)、江口郁代、宮入暁子

連絡：mmiyairi@amber.plala.or.jp 宮入

協賛：医療法人サマリヤ会 大西医院、医療法人 押木内科神経内科医院、医療法人 荻部医院